

まずは地域の課題を共有するところから

特定非営利活動法人劇研 杉山 準さん



地域との関わりの中で、私たちの活動である演劇がどう有効か、メリットがあるかを考えていき、それで地域が良くなることを目指しています。(杉山さん)

特定非営利活動法人劇研は、芸術文化の振興や芸術文化を通じての国際交流、児童青少年の育成、社会教育の推進、余暇利用の充実に寄与するとともに、市民生活の豊かさに貢献することを目的に活動されています。今回は、立誠自治連合会（中京区）、養正市営住宅 12 棟（左京区）との取組について、お話を伺ってきました。

■立誠学区でのまちづくり事業についてお聞かせください。

立誠学区のまちづくり事業は、京都市からの委託事業として平成19年にスタートしました。期間は3年間。その際に、当法人が事務局として参加したのが始まりです。ちょうど、これから事業をどうしていこうかと思っていたタイミングでした。そして、市からの委託事業が終わった今も、継続的に活動しています。



■3年間のモデル事業が終わった後、どう進められましたか？

立誠自治連合会の皆さんが、どのようなイメージで元・立誠小学校の校舎を活用し、事業を行っていきたいのかを伺いながら、私たちができることを考えていきました。幸いにも地域の皆さんは「文化によるまちづくり」に理解のあ

る方だったのです。だからこそ、私たちの専門性を活かせた。どちらかという
と自治連合会の皆さんが積極的であったため、私たちは伴走者として動いてい
くことができました。

■連携事業として良好なモデルだと思いますが、課題はありますか？

これからが課題がたくさんありますね。1つには校舎が老朽化しており、こ
のまま半永久的にこの事業を行っていくことは不可能。耐震的にも弱く、近い
将来、大規模な改修をするか、更地にして新しい建物を建てるかが必要となり
ます。現在は、校舎を暫定的に利用しながら事業を行っているのです。そのた
め、校舎の跡地利用をどうするかという問題とセットで事業の継続を探るとい
う大きな転換期が、これからやってくると思われます。

■もう1つの地域、養正市営住宅（左京区）での取組を教えてください。

養正市営住宅12棟さんと自治会をつくりました。

最初に、住人の方が地域での課題について相談にいられました。解決の糸口
となる「自治会」が必要だったのですが、それが存在していなかった。

そこで、事務手続や補助金の申請、その他にも会費や定款、予算案、事業案
の作成などのお手伝いをして、活動の土台作りを一緒に進めていきました。



■両地域と取り組まれて感じられていることはありますか？

基本的な考え方は、地域の住民のみなさんが主体であるということ。私たち
は言わば「よそ者」であり、私たちにできることをお手伝いするということにな
ります。また、私たちがすべきことをできるだけ前向きに見極め、無理なこと、
すべきでないことは行政や他のNPOに任せるようにしています。そうやっ
て、新たに連携が生まれてくると考えているんです。

■今回の取組に関して事業資金はどうされていますか？

立誠学区との取組は、予算があった最初の 3 年間でお金をつくる仕組みづくりを考えました。校舎を活用した事業を行うことで、現在はスタッフが常駐できる予算を捻出することができています。



■今後の課題と展望を教えてください。

私たちは文化の振興が専門です。演劇が専門なため、娯楽と捉えられることもあります。大事なことは思想や哲学、どういうふうにして社会を作っていくかという気持ちや価値観ではないかと感じています。地域との関わりの中で、どう有効か、メリットがあるかを考えていき、それで地域が良くなったということで、初めて文化を理解してもらえたいと思います。その可能性を広げるうえでも積極的に連携を図っていきたいと思っています。

■最後に、他の NPO 団体へのメッセージをお願いします。

NPO は公益目的の法人ですが、社会にとってのメリットと自分たちのメリットというものを混同しがちになります。

まず大事にするのは、社会にとってどう有益かというミッションであり、それによって自分たちのメリットや都合を併せて考えることだと思います。また、社会的課題はすぐに解決できるものではないことが多いので、いかに持続可能なものにするかが連携を行ううえで大事だと思います。